
神の都

HIRO.T

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神の都

【コード】

N4979E

【作者名】

HIRO・T

【あらすじ】

旅の途中で出会った神様を信じない子供。その子供に神様を見せてやろうと道行きを誘い…。

「ねえねえ。ここ、どこだよ？」

「ああっ？」

ボロボロのマントの裾を引っばる子供を見下ろして、無精ヒゲを擦りつけるように屈み込むと、

「見りゃ分かるだろ？ のっばらさ」

「そんなの分かってるよ。オレ、あんたが神様の国を見せてやるって言うからついてきたんだぜ」

「ああ。そんなことも言ってたな」

ヒゲの奥の口がニヤリと笑みをかたどったかと思うと、男はぼさぼさの髪を掻き上げながら姿勢を元に戻した。

「ウソつき！ あんた、オレに嘘言っただな！」

「いいや」

男は辺りを見回すと「よし」と口にして剣を突き立て子供を呼んだ。

「持ってる」

「ウソつきの言うことなんか、聞けないね！」

「そうは言っけどなあ。お前は神様なんざ信じちゃいないだろ？」

「……………」

「オヤジもお袋も死んじまった。神様に祈ったが無駄だった。そう俺に言っただはらずだ」

「だから！ だから何だって言うんだ！ 信じてないから……………信じないから神様の国を見せてやるって言うあんたについてきて……………」

「本当かどうか見届けようと思った」

「そうだ！」

男の腰ほどしかない子供は、声を張り上げて言い放った。

「それなら俺のことをウソつきと言わず、やっぱりなかったじゃないかと嘲笑った方がよさそうだが」

「こつ…これから笑ってやるところさ」

「そうか。それは悪かった」

大きな手で子供の頭を叩き「さあ笑え」と言ったが、子供の顔は強張るばかりだった。それどころか唇を噛み、上目遣いに男を睨み付け、次第にジワリと涙が浮かんできた。

「まあ笑うのは後でもいい。とりあえずこれを持ってくれないか」
ウンともスンとも言えず、今度は大人しく大地に突き立てられた剣の柄を握った。

男は柄に紐を緩く括り付け、それを右手に持ち、そこを中心にぐるりと円を描くように歩き始める。

「……何やってんだ？」

「まあまあ」

「あんた、ほんとに適当な大人だよな」

「生真面目と適当。ウソつきと正直者。人間は色々だ」

「あんたは適当とウソつきと、悪い方ばかりだな」

「相殺されていい人になるんだ」

「やっぱりウソつきだ」

ぼそりと口にした子供に、男は大きな声をあげて笑った。

「賢い子供は好きだ」

「フツーだよ。こんなの」

歩み寄ってきた男が遠慮無く子供を抱き締める。

逃れようとするが男の力は強く、身じろぐことさえ出来なかった。

「さて、ちよつと動かないでいてくれ」

「嘘の上塗りでもする気なのか？」

思い切り不審な表情を向けられたが、男は鼻先で笑って剣の柄を握りしめた。

轟、と風が鳴ったような気がした。

悪態をつこうとした子供の口が閉じられる。

いつの間にか辺りに風が巻き起こり、竜巻の中心になっていたからだった。

ギョツと男の服を掴むと応えるように子供の身体を抱き締め、辺りをじっと見つめる子供の視線が地に走り始めた亀裂をとらえると小さな悲鳴があがった。

「大丈夫だ」

短く口にした直後、子供が耳にしたことがない言葉が紡がれ始めた。

そしてヒゲ面の胡散臭い男から唱されているとは思えない朗々とした声。

子供は目を見開いて男を見上げた。

次の瞬間、地を走る亀裂から光が天に届くほど吹き出し、消えた。風も止み、辺りはただ荒れ野が広がるばかりだった。

「……ね…ねえ。何だったんだ…よ……。今の……」

「神様つてのはな、人間の住む地上には降りてこねえのさ」

「そうなの？」

「ああ。だから俺が神になる」

「……えっ？ あんた…頭が……」

言いかけた子供に笑みを向けてから剣を大地から引き抜き、一閃させた。

ビリビリと大気が悲鳴をあげる。

その凄まじい音が消えた後、子供の視界に移ったのは、焼け跡が道のように遙か彼方まで続いている風景だった。

「……何…それ…」

「魔剣さ。俺はこれで大地を統べる神になる。そしてここが都だ」
先程と同じ朗々たる声が響き渡った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4979e/>

神の都

2010年12月14日20時03分発行